

令和4年度学校自己評価システムシート (県立児玉白楊高等学校)

n19

| | |
|--------|------------------------------|
| 目指す学校像 | 母校を愛し、地域の未来を担う心豊かな産業人を育成する学校 |
|--------|------------------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 主体的な学びの実現と確かな学力の育成 2 地域と協働した魅力ある学校づくり 3 実学としての資格取得の推進と100%の進路実現 4 社会で通用する産業人の育成と部活動の充実 |
|------|---|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 4名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 10名 |

| 学校自己評価 | | | | | | | |
|--------|---|---|---|---|--|-----|--|
| 年度目標 | | | 年度評価(2月1日現在) | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | |
| 1 | 「確かな学力の育成」は、本校にとっても重要課題であるが、「朝学習」の取組の継続が着実に効果をあげており、引き続き地道に取り組んでいく必要がある。 「確かな学力の育成」に最も効果的なのは生徒が主体的に取り組めるようにすることである。それを目指し、教職員自らにベクトルを向け、日々授業改善に取り組む必要がある。その一環としてのICTの活用は、本校では少々進んではいるが、授業での効果的な活用を更に研究していく必要がある。 | (1) 教職員が「主体的な学び」の実現に向けて、効果的なICTの活用を含めた授業改善を行う。 (2) 生徒の「確かな学力の育成」に向けた効果的な学習支援を行う。 | (1) BYOD環境を活用した授業を行い、生徒が主体的に取り組む機会を増やす。 (2) ICT活用プロジェクトチームにより、生徒の学習活動のICT化を推進し、実践事例を共有する。 (1) 朝学習を活用し、国語、数学、英語の基礎学力の伸長を行う。 (2) 生徒の実態に応じた個別学習や成績不振者に対する指導を充実させる。 (3) ユニバーサルデザインの概念を取り入れ、指導方法や教材提示方法等にICTを活用する。 | (1) 生徒アンケートにより、学習に主体的に取り組む生徒の割合を8割程度に維持できたか。 (2) ICTを取り入れた実践事例の共有を行うことができたか。 (1) 基礎力診断テストで基礎学力の伸びを測り、7割の生徒が向上したか。 (2) 成績不振者の割合及び欠点解消率が昨年よりも改善できたか。 (3) 6割の教員がICTを活用できたか。 | (1) 朝学習への主体的な取り組みが77.2%、定期調査が69.3%、資格取得が68.5%と目標に達することはできなかった。 (2) それぞれの授業でICTを取り入れた実践が増え、活用事例の学科内や教科内での共有も進んだ。 (1) 現時点で基礎力診断テストによる学力伸長は見られていない。 (2) 2学期の欠点解消率は1年40.5%(R3:52.5%) 2年42.9%(R3:62.5%) 3年45.2%(R3:61.3%)と大幅に悪かった。 (3) 6割以上の教員の中で、Google Classroomを中心としたICT活用が浸透してきている。 | B | 確かな学力の育成には生徒の主体的取り組みを一層増やすことが望まれる。引き続き学校全体でのBYOD環境の積極的な活用と、ICTを取り入れた教育活動実践の共有を進める。 次年度1年生は各自が学習端末を所有する。具体的な効果的活用が求められるが、まずは朝学習での生徒の主体的な活用を計画中である。 |
| 2 | 複雑化・困難化した教育課題を解決するためには、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」をベースに地域と協働した学校づくりを推進していくことが肝要である。 今年度は新校立ち上げまでの最終年度として、地元自治体等との連携案を具現化し、地域社会と協働した新校の基盤づくりの総仕上げを行う必要がある。 また、児玉高校と協力して、新校の魅力を十分に発信していく必要がある。 | (1) 新校立ち上げを見据えた地域との協働による取組を推進する。 (2) 新校及び専門学科の魅力を積極的に発信する。 | (1) 地元企業の技術者や農業関係者に講師として来ていただき、その知識や技術を授業や補習等に活用する。 (2) 児玉新校の開校を見据え、「地域協働」による探究活動推進の研究と体制構築に取り組む。 (3) 市や自治体等と連携し、地域交流に取り組む。 (1) 地元小学生等を対象に「親子でおもしろ体験講座」を実施し、ものづくりの良さを体験してもらおう。 (2) 地域や上級学校等との連携をより一層推進し、地元中学校教員向けの説明会を実施する。 (3) 各学科の教育活動をパネル展示したり、HPの更新を行う等の広報活動を強化する。 | (1) 地元企業の技術者や農業関係者を活用した授業等を年5回以上できたか。 (2) 児玉新校開校準備委員会で探究活動の推進及び体制構築に向けた取組を行えたか。 (3) 市や地域の要請により、連携しながら地域交流を行えたか。 (1) 「親子でおもしろ体験講座」を実施できたか。 (2) 地元中学校教員向けの学校説明会を実施できたか。 (3) 学校説明会等で効果的な情報提供ができたか。また、HP閲覧数が昨年よりもアップしたか。 | (1) 資格取得や各種事業において農業科・工業科とも外部講師の授業等を5回以上実施できた。 (2) 地域課題探究活動の年間計画を作成することができた。 (3) 本庄市、美里町と多くの場面で連携・協働が実施できた。 (1) 「親子でおもしろ体験講座」を実施できた。募集30分で定員を満した。 (2) 集会型の説明会は行えなかったが、両校の校長が各中学校に説明に回った。 (3) 新校用のホームページには360度viewでの仮想校内見学等も取り入れ、教育長のコメント動画を掲載するなど、効果的な情報提供が実現した。 | A | 地域との協働による取り組みや連携は、各科を中心に科の特徴を活かしつつ、多くの場面で実現できている。次年度はそれらをどの程度「こだま学」として位置づけられるか、また各科によらず、学年・学校としてどれだけ地域探究活動が実施できるかが課題である。 新校の魅力発信には今後とも力を入れていく。と同時に、より細かな生徒指導方針や単位修得の仕組みなども情報提供していき、そのうえで生徒募集の活動に繋げられる仕組みが必要である。 |
| 3 | 社会で通用する産業人の育成につながる資格取得の推進は、就職内定にも効果的であり、専門学科として大いなる強みでもある。コロナ禍の中、厳しい状況ではあるが、生徒保護者への情報提供等を工夫しながら、更なる資格取得の推進に積極的に取り組んでいかなければならない。 また、例年の就職内定率100%の達成については、学校関係者からは「コロナ禍にあって教職員の苦勞の結果」と高い評価をいただいている。専門学科の強みを生かし、今年度においても引き続ききめ細かな進路指導を教職員一丸となって取り組む必要がある。 | (1) 社会で通用するための資格取得の取組を充実させる。 (2) 生徒の進路希望を100%実現させるきめ細かな進路指導等を行う。 | (1) 専門性の高い難関資格取得に向け、授業や補習等の充実を引き続き取り組む。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター、及びアグリマイスター顕彰等の取得者の増加に取り組む。 (1) 進路指導年間計画に基づき、各学年で進路ガイダンス等の行事を実施する。 (2) 2年生でインターンシップを実施し、勤労観や就労感の醸成を行う。 (3) 3年生で、就職希望者の会社訪問や進路希望者の学校見学を行わせ、進路実現に向けた意識の醸成を図る。 | (1) 令和3年度よりも検定や資格の取得率が向上したか。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター及びアグリマイスターの取得者が令和3年度よりも増加したか。 (1) 年間計画に基づき、各学年で進路行事を実施できたか。 (2) 就職希望の2年生が全員インターンシップに参加したか。 (3) 会社見学や学校見学により進路意識が向上し、100%の進路実現につながったか。 | (1) 資格・検定の取得率は66.8%(1月現在)(昨年56.3%)であった。 (2) ジュニアマイスター取得者2名、アグリマイスター取得者2名でコロナ禍で減少する以前の水準を取り戻した。顕彰制度受賞者数は昨年度より減であった(1月現在) (1) 当初計画とおりの進路行事を実施し、各学年段階に即したキャリア教育ができた。 (2) 多くの企業に協力いただき十分な感染対策の下インターンシップが実施できた。 (3) 面接指導や体験入学報告等を充実させ、学校斡旋による100%の進路実現を達成した。 | A | 自己理解や社会状況の理解が不足している感は否めない。基礎学力向上が必要であり社会理解も併せて大切である。そのためにも職業体験や上級学校訪問等への積極的参加を推奨し、一層の充実が必要である。 次年度は普通科生徒への進路指導も始まり、上級学校の受験情報の収集やオープンキャンパスへ参加等の計画的な指導などが必要である。 |
| 4 | 社会で通用する産業人の育成のため、引き続ききめ細かな生徒指導を推進していく必要がある。特に生徒が信頼される社会人となるために重要な遅刻指導は、引き続き組織的な取組に注力する必要がある。 また、児玉新校を見通して両校で部活動の交流を図りながら、部活動を活性化し、充実させる必要がある。 | (1) 社会で通用する人材育成のための指導を充実させる。 (2) 新校統合を見据え両校で交流を図りながら、部活動を活性化・充実させる。 | (1) 遅刻指導や整容指導により、社会人としてのマナーを醸成する。 (2) 保護者との連携を強化するため、メール配信を引き続き活用する。 (3) 巡回支援やスクールカウンセラー等を活用し、特別な支援が必要な生徒の支援に取り組む。 (1) 児玉高等学校との統合に向け、合同練習等を通して活性化を図る。 (2) 資格取得のための補習やその他の活動とのバランスを調整しながら、部活動を続ける生徒の割合を向上させる。 | (1) 遅刻指導や整容指導により、前年比で指導対象者が減少したか。 (2) 通知・お知らせの配布や行事についての連絡をメール配信でも実施できたか。 (3) 外部支援を年間30回以上活用できたか。 (1) 児玉高等学校等との合同チームで公式戦等に参加する機会が増えたか。 (2) 部活動を続ける生徒の割合が増えたか。 | (1) 遅刻回数は昨年度よりも14%減少した。 (2) 保護者通知等でメール配信を十分活用できた。 (3) 年間30回以上の外部からの支援をいただき、個々の生徒の状況に合わせた支援指導が実現できた。 (1) 合同チームでの公式戦参加や合同練習は昨年並みであった。 (2) 部活動を継続する生徒の割合は昨年並みであるが、傾向としては減少傾向の様相を呈している。 | B | 次年度はこれまで異なる環境で異なる指導を受けてきた生徒たちが新校上級生として1年生を迎える。その意味ではきめ細かな生徒指導を推進していく必要があるが、個別に走りすぎると指導の自己矛盾を起す可能性もあり、教職員間の密な連携が必要である。 1年生による問題行動が増加している。特別支援教育の側面からの支援が必要である。 |

| | |
|-------------------|--|
| 学校関係者評価 | 実施日 令和5年 3月14日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標が達成できなかった原因の検証が必要である。しかし、7割の生徒が主体的に学習に取り組んでいること、学年末には9割以上の欠点解消ができてはきちんと評価されるべき。 ・今後とも小さな成功体験を積み上げさせることで「主体的な学びの態度」の育成をお願いしたい。 ・コロナ禍が一段落の感があるが、今後のためにもリモート学習を見据えた学習端末の活用研究をお願いしたい。 ・市民ボラサロンの取組には地域住民代表として非常に感謝している。次年度以降も「こだま学」としての継続と、複数学科への拡大を推し進めていただきたい。 ・多くの外部団体との協働体験は生徒にとって大変よい経験となる。今後とも継続、発展を期待する。 ・外への魅力発信の観点で振り返ると、両項目ともA評価でいいと思われる。 ・保護者に対して教育活動参加型・学校来校型の更なる情報提供を期待する。ホームページや学校便りでの情報提供には満足している。 ・各科とも資格取得や検定に力を入れており感謝している。生徒たちも頑張っている。今後とも継続していただきたい。 ・進路選択、進路決定活動には生徒自身による「社会に出ていく」という意識が非常に大事である。その意識づけのためにも、個々の生徒に目を配る手厚い指導を継続していただきたい。 ・就職希望者が多い本校では、卒業時には社会人としての資質の定着が求められる。難しいことは承知しているが、進路指導や生徒指導の一層の充実を期待したい。 ・遅刻者の割合が減ったことはすばらしい。毎日の立哨指導、遅刻指導の成果であろう。 ・次年度は学年内で生徒たちが一体感を持てるかどうか心配な面もある。学校生活を重ねる中でお互いに思いやりの気持ちを持ちながら、時間をかけてまとまっていってもらいたい。 ・部活動については生徒のニーズに合わせながら、勉強以外に打ち込めるものの選択肢として充実させてもらえるとうれしい。 |